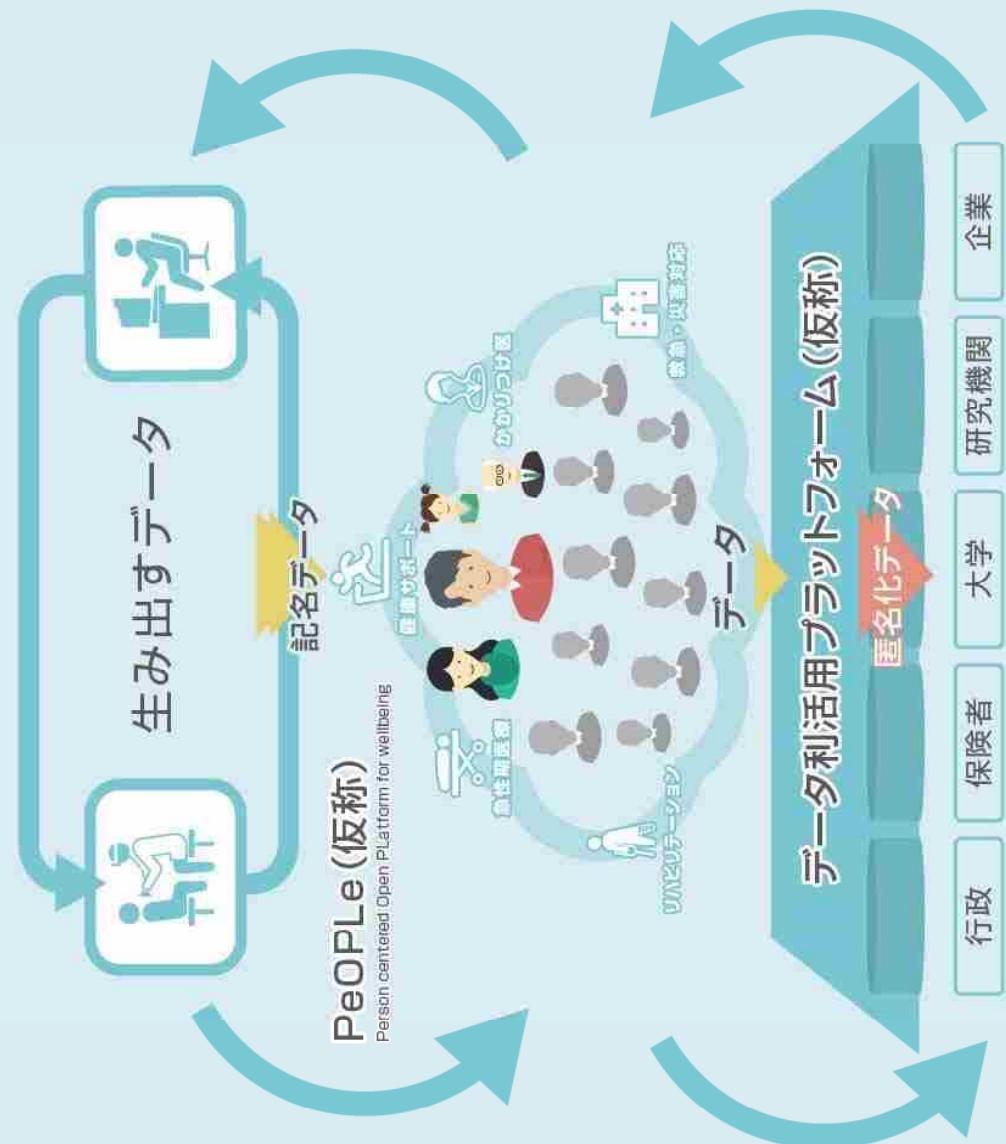


## 4-4. ICTを活用した「次世代型保健医療システム」(全体イメージ)

次世代型ヘルスケアマネジメントシステム(仮称)



Layer 1: つくる

- ◆ 最新のエビデンスや診療データを、AIを用いてビッグデータ分析し、現場の最適な診療を支援する「次世代型ヘルスケアマネジメントシステム」(仮称)を整備。

Layer 2: つなげる

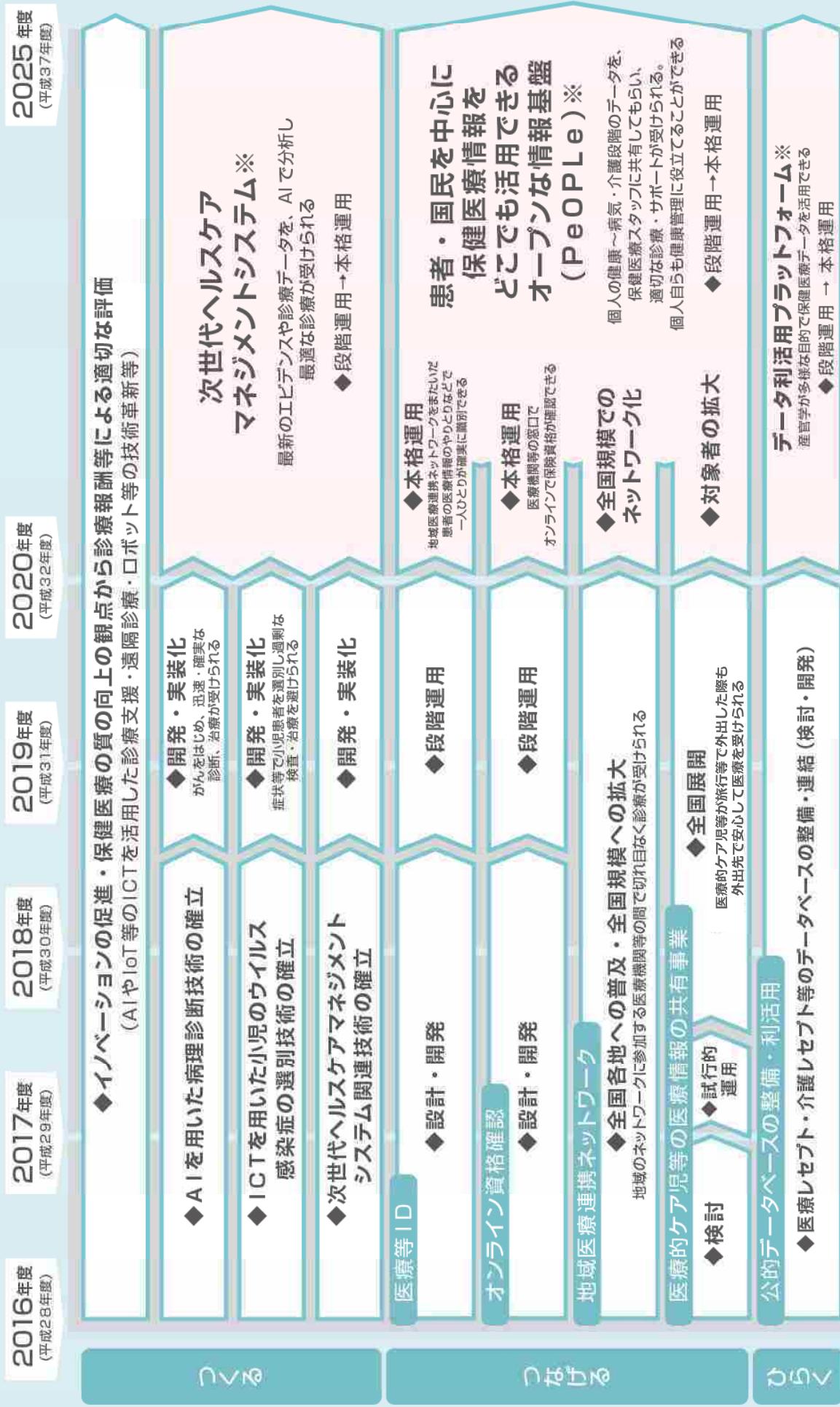
- ◆ 個人の健康なときから疾病・介護段階までの基本的な保健医療データを、その人中心に統合する。
- ◆ 保健医療専門職に共有され、個人自らも健康管理に役立てるものとして、すべての患者・国民が参加できる「PeOPLE」(仮称)を整備。

Layer 3: ひらく

- ◆ 産官学のさまざまなアクターがデータにアクセスして、医療・介護などの保健医療データをピックデータとして活用する。
- ◆ 「PeOPLE」(仮称)や目的別データベースから、産官学の多様なニーズに応じて、保健医療データを目的別に収集・加工(匿名化等)・提供できる「データ利活用プラットフォーム」(仮称)を整備。

## 5. 「次世代型保健医療システム」の構築に向けた主なアクション・工程表

2020年度には「次世代型保健医療システム」のインフラの段階運用をめざす。



つくる

つなげる

ひらく

※技術革新に合わせ機能を拡充

# 健康寿命の更なる延伸のために 医学はなぜ“重要”か

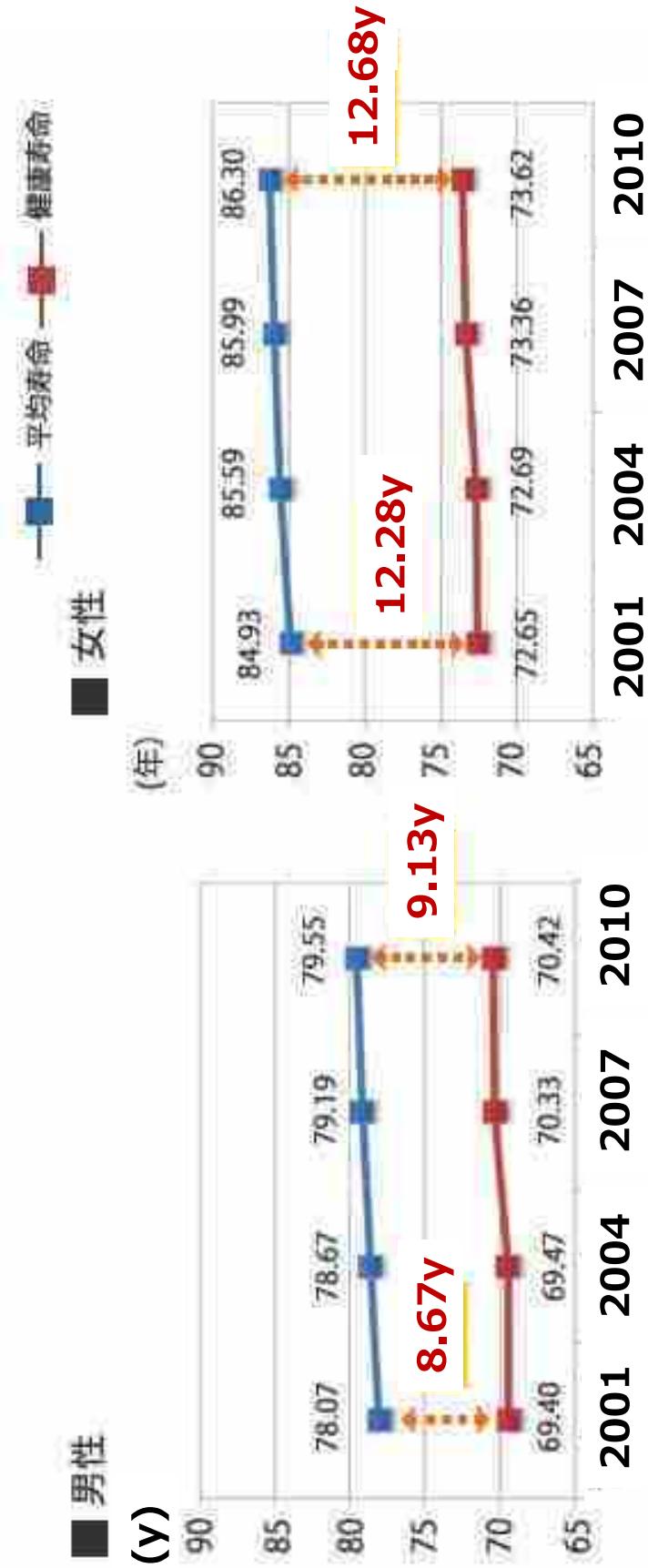
京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻医療疫学分野・准教授  
皮膚科准教授兼任

山本 洋介

専門分野：アトピー性皮膚炎 臨床疫学 QOL (Quality of Life)  
認定医資格等：皮膚科専門医 医学博士  
大学・卒業年度：京都大学 平成14年卒



# 日本における健康寿命



<http://www.gov-online.go.jp/useful/article/201402/1.html>

- 平均寿命と健康寿命のギャップは拡大  
= 低い ADL・QOL で過ごす高齢者は今なお増加

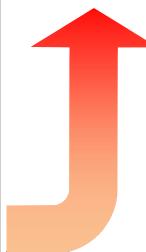
# 介護が必要となつた原因の構成割合

**健康寿命の延伸を目指し、  
「要介護状態」を招きうる  
疾病を減らすには…**

1. 新たな治療法の開発
2. 各疾病のリスク因子の定量的な検証、それを踏まえた予防介入の実施
3. 既存の治療法での、evidence-practice gapの同定・解消
4. 全ての前提として、健常状態の正確な把握



平成25年 国民生活基礎調査の概況 より



**とりわけ2~4は、疫学的方法論の活用が必須**

# 各疾病のリスク因子の 定量的な検証